

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	甲状腺眼症に対する両側下直筋後転術の術後成績とそれに関与する因子、及び量－効果関係に関する研究
研究機関名及び 研究機関の長 (試料・情報の管理 責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘
試料・情報の利用目的 及び利用方法	<p>[利用目的]</p> <p>甲状腺眼症では両側の下直筋が傷害され、下斜視及び上転障害が出現することがあります。治療は両側下直筋後転術ですが、その際に下斜視を修正する目的で、重症側の下直筋をより大きく後転させます。これまでに両側下直筋後転術の術後成績を左右する因子及び斜視角の変化量と後転量の左右差の関係が明らかとなったことはありません。</p> <p>[対象となる患者さん]</p> <p>2015年1月から2023年1月までに両側下直筋後転術を当科で受けた甲状腺眼症患者さん</p> <p>[研究期間]</p> <p>研究実施承認日 ～ 2023年12月31日</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。研究の方法に関する資料を入手・閲覧を希望する場合は、下記問い合わせ先まで申し出てください。</p>
利用又は提供する試料・情報の項目	情報：年齢、性別、喫煙歴、甲状腺眼症炎症期に対する治療歴、手術内容、術前後の斜視の状態
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	非該当
提供する試料・情報の取得の方法	非該当
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責	非該当

任者名	
利用する者の範囲	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年9月30日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)